
イキルイシ

要徹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
イキルイシ

【Nコード】
N7955L

【作者名】
要徹

【あらすじ】
「どうして、こんな世の中になっちまったんだろうなあ」

真つ暗な駅のホームに、明々とした照明をぶら提げた電車がやってきた。

時刻は〇時過ぎ。もうそろそろ終電の時間だ。そのためか、多くの人間がその電車に乗り込んだ。乗車した客は例外なく死んだ目をしていて、相当疲れているものと見える。背中を猫のように丸め、スーツは草臥れ、髪は乱れに乱れており、まるで落ち武者のようである。

車掌が両ごとに切符を切って回る。目的地への片道切符を手に持ち、皆が車掌を待っている。車掌は一枚、また一枚と切符を切っていく。切符を切られた客は、その後ぐったりとして、

「ありがとう」
と呟いた。

次の駅、次の駅と行くにつれ、客は増え始める。さっきまではサラリーマン風の人間ばかりだったが、今の車内には学生も混じり始めている。中には、どこかで転んだのか、傷だらけで乗車する者もいた。

「どうして、こんな世の中になっちまったんだろうなあ」
車掌はぼやかずにはいられなかった。毎日、毎日死んだ魚の目をした人間の切符を切る、そんな生活は嫌だった。誰も生きる希望など持たず、誰もその列車に乗ることをためらわない。何の末練もなく、ただ乗車する。

終着駅の手前で、一人、気になる客が乗りこんできた。

その客は、手に家族の写真を写っていた。写真に写っている、妻と見られる女性はとても幸せそうな笑みを浮かべている。その女性の隣に、二人の男の子が写っていた。きっと、彼らは成長すればたくましい男になるだろう。

客は、車掌に無言で切符を手渡す。

「本当にいいのかい？」

客は何も答えなかった。ただ切符を差し出して、うつむいたまま
でいた。客は、かすかに涙を流し、体を小刻みに震わせていた。

車掌は小さくため息をつき、言った。

「あんたはまだこの電車に乗るべきじゃないな。さ、降りて家に帰
るんだ。家族が待っているのだろう？」

客は顔を上げ、笑いかけた。

「そうだね。ありがとう」

深々と頭を下げ、彼は電車を降りて去って行った。

暗闇にサーチライトを当て、終着駅を照らす。しかし、いくら光
を強くしても、先は見えない。終着駅は、永遠に見ることは出来な
い。いや、見ないほうがいい。君たちも、いずれこの地を訪れるこ
とになるだろうから。

車掌は、マイクを手に取り言った。

「次は終点、黄泉の国、黄泉の国。この世に未練のある方、生きる
意志のある方は、今すぐに下車してください。もう二度とこの世に
は戻れません。間もなく、発車いたします」

（後書き）

デフレの影響が、生命というモノが安くなってきましたね。

命の価値は、決して値下がりにしてほしくないものです。

あなたが今、捨てようとしているソレは、どれだけの価値があるのでしょうかね。

今一度、命の価値を考えてみると良いかもしれません。

決して安くはないものだと思つづきはらずです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7955/>

イキルイシ

2010年10月10日17時11分発行